

専門分野

成人看護学

シラバス

科目名	成人看護学総論	単 位	1	時 間 数	30	開 講 時 期	1年次後期	担 当 者	教員
学習のねらい	<p>成人期にある人々の特徴及び発達課題、健康問題について、生活環境との関連性から学習する。</p> <p>成人期にある人々を取り巻く保健・医療・福祉システムおよび代表的な概念や理論について学び、看護への応用について考えを深める。</p> <p>各健康レベルの概要を理解し、その状況に応じた看護実践について学習を深める。</p>								
目的・目標	<p>目的；成人期の概要および医療システムを理解し、各健康レベルに応じた看護のあり方を理解する。</p> <p>目標；1. 成人期にある人々の身体的・心理的・社会的な特徴、健康問題の特徴について理解できる。</p> <p>2. 健康問題が社会生活に及ぼす影響を理解し、健康を支援する保健・医療・福祉システムと結びつけて解釈できる。</p> <p>3. 成人看護学で用いられる代表的な概念や看護理論を理解できる。</p> <p>4. 各健康レベルにおける看護の意義を理解し、その状況に応じた看護実践を考察できる。</p>								
授業計画	<p>1回 (45分×2). 成人と生活：成人各期の定義と特徴</p> <p>2回 (45分×2). 成人の生活と健康：成人各期の生活と健康問題、</p> <p>3回 (45分×2). 生活と健康を守るシステム：保健・医療・福祉システム</p> <p>4回 (45分×2). ヘルスプロモーションと看護</p> <p>5回 (45分×2). 健康をおびやかす要因と看護</p> <p>6回 (45分×2). 成人への看護アプローチの基本①：アントラゴジー、トランスセレティカルモデル</p> <p>7回 (45分×2). 成人への看護アプローチの基本②：倫理的判断、意思決定支援、家族支援</p> <p>8回 (45分×2). 健康レベルに応じた看護（急性期）：危機理論、ボディイメージ、喪失への適応過程</p> <p>9回 (45分×2). 健康レベルに応じた看護（急性期）：治療過程による看護技術</p> <p>10回 (45分×2). 健康レベルに応じた看護（リハビリ期）：障害受容過程</p> <p>11回 (45分×2). 健康レベルに応じた看護（慢性期）：病みの軌跡理論、セルフマネジメント、症状マネジメント</p> <p>12回 (45分×2). 健康レベルに応じた看護（終末期）：死の受容過程、全人的苦痛、予期的悲嘆</p> <p>13回 (45分×2). 療養の場を移行する人々の看護技術</p> <p>14回 (45分×2). 新たな治療法・先端医療と看護</p> <p>15回 (45分×2). 試験</p>								
評価方法	筆記試験（80%）、レポート内容（20%）で評価する								
教科書	<p>系統看護学講座 成人看護学総論 医学書院</p> <p>国民衛生の動向</p>								
参考文献									
履修要件									

シラバス

科目名	成人看護援助論 I	単 位	1	時 間 数	30	開 講 時 期	1 年次後期	担 当 者	慢性呼吸器看護認定看護師 集中ケア認定看護師 教員
学習のねらい	成人各期の特徴を把握した上で、人間の各臓器に身体的あるいは精神的な障害がおこった場合に、その対象がいかなる状態におかれるかを理解し、そのときの対象のニーズを満たすためにはどのようにすればよいかを、各システムに沿って学習する。またより効果的な看護が行えるよう解剖生理学や病態学など医学的な基礎知識としての既習知識の統合化を図ってほしい。								
目的・目標	<p>目的；呼吸器、循環器、血液・造血器疾患の特徴を理解し、その疾患を有する対象が示す人間の反応について臨床判断し、実在または潜在する健康課題を解決できる能力を養う。</p> <p>目標；1. 看護の展開に必要な解剖生理学、病態学などの医学的な基礎知識を想起することができる。 2. 各システムにおける、経過、症状、検査および治療・処置、看護の実際が理解できる。</p>								
授業計画	<p>呼吸機能障害のある患者のアセスメントと看護（45分×10）</p> <p>1. 症状とその病態生理（咳嗽、喀痰、血痰、胸痛、呼吸困難、チアノーゼ）</p> <p>2-3. 気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、結核</p> <p>4-5 気胸、肺がん（肺切除術・人工呼吸器装着）</p>			<p>循環器障害のある患者のアセスメントと看護（45分×12）</p> <p>1. 症状とその病態生理（動悸、胸痛、浮腫、チアノーゼ、ショック）</p> <p>2. 不整脈（ペースメーカー植込み術患者の看護）</p> <p>3-4. 虚血性心疾患（冠動脈バイパス術）</p> <p>5-6 動脈疾患（弁膜症・弁置換術）</p>			<p>血液・造血器障害のある患者のアセスメントと看護（45分×8）</p> <p>1-2. 造血器腫瘍（白血病、非ホジキンリンパ腫）</p> <p>3. 赤血球系異常（貧血） 出血性疾患（播種性血管内凝固症候群）</p> <p>4. 出血傾向・白血球減少（感染予防について）のある患者の看護</p>		
	筆記試験（45分）								
評価方法	筆記試験（呼吸機能障害看護 30%、循環機能障害看護 40%、血液機能障害看護 30%）								
教科書	系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 ②呼吸器、③循環器、④血液・造血器 医学書院								
参考文献	必要に応じ、資料を提示、配布する								
履修要件	解剖生理学、病態学								

シラバス

科目名	成人看護援助論Ⅱ	単 位	1	時 間 数	30	時 期	1年次後期	担 当 者	教員 糖尿病認定看護師 皮膚排泄ケア認定看護師
学習のねらい	成人各期の特徴を把握した上で、人間の各臓器に身体的あるいは精神的な障害がおこった場合に、その対象がいかなる状態におかれるかを理解し、そのときの対象のニーズを満たすためにはどのようにすればよいかを、各系統に沿って学習する。またより効果的な看護が行えるよう解剖生理学や病態学など医学的な基礎知識としての既習知識の統合化を図ってほしい。								
目的・目標	目的； 消化器、内分泌、糖代謝、膠原病疾患の特徴を理解し、その疾患を有する対象が示す人間の反応について臨床判断し、実在または潜在する健康課題を解決できる能力を養う。 目標； 1. 看護の展開に必要な解剖生理学、病態学などの医学的な基礎知識を想起することができる。 2. 各系統における、経過、症状、検査および治療・処置、看護の実際が理解できる。								
授業計画	消化・吸収機能障害のある患者のアセスメントと看護（45分×12） 1. 症状とその病態生理（嘔気・嘔吐、腹痛、吐血・下血、腹部膨満、腹水、黄疸、意識障害（肝性脳症）） 2. 食道がん 3. 胃がん 胃・十二指腸潰瘍 4. 肝臓がん 肝炎 胆嚢結石 5. 膵臓がん 膵炎 6. 大腸がん	内分泌機能障害のある患者のアセスメントと看護（45分×2） 1. 甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、副甲状腺機能低下症	内部環境（血糖）調節機能障害のある患者のアセスメントと看護（45分×8） 1-2. 糖尿病 3. 演習：血糖測定 4. 高脂血症 高尿酸血症	生体防御機能障害をもつ患者のアセスメントと看護（45分×8） 1. 症状とその病態生理（発熱、関節症状、皮膚・粘膜症状、筋症状、レイノー現象） 2. 関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、 3. 全身性強皮症、多発筋炎・皮膚筋炎患者、ベーチェット病	筆記試験（45分）				
評価方法	筆記試験（消化機能障害看護 45%、内分泌機能障害看護 5%、内部環境調節機能障害看護 25%、生体防御機能障害看護 25%）								
教科書	系統看護学講座—専門Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器 医学書院 系統看護学講座—専門Ⅱ 成人看護学⑥ 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座—専門Ⅱ 成人看護学⑪ アレルギー 膠原病 感染症 医学書院								
参考文献	必要に応じ、資料を提示、配布する								
履修要件	解剖生理学、病態学								

シラバス

科目名	成人看護援助論Ⅲ	単位	1	時間数	30	開講時期	1年次後期	担当者	脳神経科エキスパート看護師 整形外科エキスパート看護師 乳がん認定看護師 皮膚排泄ケア認定看護師看護師 腎不全看護師
学習のねらい	成人各期の特徴を把握した上で、人間の各臓器に身体的あるいは精神的な障害がおこった場合に、その対象がいかなる状態におかれるかを理解し、そのときの対象のニーズを満たすためにはどのようにすればよいかを、各系統に沿って学習する。またより効果的な看護が行えるよう解剖生理学や病態学など医学的な基礎知識としての既習知識の統合化を図ってほしい。								
目的・目標	目的；運動機能障害、脳・神経機能障害、排泄機能障害、生殖機能障害の特徴を理解し、その疾患を有する対象が示す人間の反応について臨床判断し、実在または潜在する健康課題を解決できる能力を養う。 目標；1. 看護の展開に必要な解剖生理学、病態学などの医学的な基礎知識を想起することができる。 2. 各系統における、経過、症状、検査および治療・処置、看護の実際が理解できる。								
授業計画	脳・神経機能障害のある患者のアセスメントと看護 (45分×10) 1. 症状とその病態生理（意識障害、高次脳機能障害、運動機能障害、感覚機能障害、自律性のある機能の障害） 2. 症状とその病態生理（頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア（脳嵌入）、髄膜刺激症状、頭痛、めまい） 3. 脳血管疾患、脳腫瘍、頭部外傷 4. パーキンソン病、髄膜炎、重症筋無力症 5. 多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症、筋ジストロフィー	排尿機能障害のある患者のアセスメントと看護 (45分×8) 1-2. IgA腎症、ネフローゼ症候群 急性腎不全 慢性腎不全 血液透析 腹膜透析 3. 排泄機能障害	乳腺機能障害をもつ患者のアセスメントと看護 (45分×2) 1. 乳がん	運動機能障害のある患者のアセスメントと看護 (45分×10) 1. 症状とその病態生理（神経障害、循環障害、深部静脈血栓症、出血、感染） 2-3. 関節リウマチ、変形性関節症 4-5. 腰椎椎間板ヘルニア 脊髄損傷、骨腫瘍	筆記試験（45分）				
評価方法	筆記試験（脳神経機能障害看護 35%、排泄機能障害看護 24%、生殖器機能障害看護 6%、運動機能障害看護 35%）								
教科書	系統看護学講座—専門Ⅱ 成人看護学⑦ 脳・神経 医学書院	系統看護学講座—専門Ⅱ 成人看護学⑧ 腎・泌尿器 医学書院	系統看護学講座—専門Ⅱ 成人看護学⑨ 女性生殖器 医学書院	系統看護学講座—専門Ⅱ 成人看護学⑩ 運動器 医学書院					
参考文献	必要に応じ、資料を提示、配布する								
履修要件	解剖生理学、病態学								

シラバス

科目名	成人看護学演習 I	単 位	1	時 間 数	15	開 講 時 期	2 年次前期	担 当 者	教員
学 習 の ね ら い	回復期にある対象を理解し、回復期にある患者がその人らしい生活を再構築するためのプロセスを理解するとともに、疾患や障害によって変化した QOL を再構築するために必要な看護支援方法について、看護過程の展開を行い修得する。								
目 的 ・ 目 標	<p>目的；回復期についての理解を深め、既習知識を基盤に演習を実施し、看護過程の展開技術を修得する。</p> <p>目標；1. 回復期における看護の特徴を理解できる。</p> <p>2. 回復期における対象の日常生活拡大・自立への援助を計画・実施できる。</p>								
授 業 計 画	<p>1 回（45 分×2） 演習オリエンテーション、 看護過程；情報の整理 [脳梗塞の事例]</p> <p>2～3 回（45 分×4） 看護過程；アセスメント(分析/統合)</p> <p>4～5 回（45 分×4）. 看護過程；関連図</p> <p>6～8 回（45 分×5）. 看護過程；看護診断、期待される成果と看護計画、実施・評価</p> <p>※看護過程では優先順位 # 1 に対する 1 場面を実施し実施・評価を記載する 実際にグループ事に看護師役、患者役になり実践する。</p>								
評 価 方 法	演習へのとり組み方 (10%)、提出状況と内容 (50%)、グループワーク参加状況 (30%)、発表状況 (10%)								
教 科 書	系統看護学講座—専門Ⅱ 成人看護学 7 脳・神経 医学書院								
参 考 文 献	必要に応じ、資料を提示、配布する								
履 修 要 件	<p>基礎看護援助論</p> <p>解剖生理学 成人看護学総論、成人看護学援助論</p>								

シラバス

科目名	成人看護学演習Ⅱ	単位	2	時間数	30	時期	2年次前期	担当者	教員
学習のねらい	<p>急性期にある対象は、急激な侵襲による身体的変化によって、生命が脅かされた状態に陥る。そのため、生命を維持するために必要な観察と的確な処置やケアが必要とされている。講義、シミュレーション教育を通して、看護実践できる力を修得する。</p> <p>終末期にある対象は、疾患からくる障害により、痛みや呼吸困難といった苦痛を伴う症状がもたらされ、人間本来の存在をも脅かされる状態となり、霊的苦痛を味わうことになる。講義、演習を通して看護実践できる力を修得する</p>								
目的・目標	<p>目的；対象の健康レベルに即した患者理解のために必要な知識を習得する。また、看護問題の解決に必要な実践的な思考プロセス（判断能力、応用能力、問題解決能力）を養い、基本的な援助を修得する。</p> <p>目標；1. 急性期の状態をアセスメントし、看護の方向性を考えることができる。 2. 手術療法と起こりうる合併症およびその予防と対処方法を説明できる。 3. 術後合併症を予防するための看護を演習で実践できる 4. 終末期における特徴的なアセスメント、疾病や症状コントロールのために必要とされる看護援助について理解することができる</p>								
授業計画	<p>周手術期にある人の特徴と理解 (45分×16)</p> <p>1. 手術侵襲に対する生体反応と回復過程 周手術過程に応じた看護 2. 術前の看護 3. 術中の看護 4. 術後の看護 術後合併症と予防のための看護技術 5-8. 周手術期の事例展開 看護実践力を養うためのシミュレーション 1) 術前のアセスメント 2) 術後1日目の観察 3) 早期離床、術後合併症予防に向けての援助 4) 術創・ドレーンの管理</p>				<p>緩和、ターミナル期にある人の特徴と理解 (45分×12)</p> <p>1. ターミナルケア・緩和ケアの考え方 死をめぐる倫理的問題（意思決定 アドバンスド・ケア・プラン、リビング・ウィル） 2. ターミナル期にある人とその家族の特徴と理解 （身体的特徴（死の3徴候、見取り）／心理的・社会的・霊的特徴）/死後の処置 3. ターミナル期にある人とその家族への看護援助 （QOLの維持・向上、ケアリングとエンパワーメント、スピリチュアルケア） 4. 症状メカニズムとそのマネジメント （倦怠感、痛み、浮腫、呼吸器症状、消化器症状、精神症状） 5-6.（終末期の事例展開 終末期患者の事例展開） 身体症状のアセスメント 痛みのマネジメント 浮腫のマネジメント 呼吸器症状のマネジメント 消化器症状のマネジメント 精神症状のマネジメント</p>				
	筆記試験（45分×2）								
評価方法	筆記試験（50%）、演習への取り組み方；提出状況と内容、グループワーク参加状況、発表状況（50%）								
教科書	周手術期看護論 ヌーヴェルヒロカワ 緩和・ターミナルケア看護論 第2版 ヌーベルヒロカワ 系統看護学講座 成人看護学総論								
参考文献	必要に応じ、資料を提示、配布する								
履修要件	基礎看護援助論 解剖生理学 成人看護学総論、成人看護学援助論								